

# 都ぞ弥生

(明治四十五年寮歌)

横山芳介君 作歌  
赤木顕次君 作曲

## 一

都ぞ弥生の雲紫に  
花の香漂ふ宴遊の筵  
尽きせぬ奢に濃き紅や  
その春暮れては移らふ色の  
夢こそ一時青き繁みに  
燃えなん我胸想ひを載せて  
星影冴かに光れる北を  
人の世の清き国ぞとあこがれぬ

## 二

豊かに稔れる石狩の野に  
雁遙々沈みてゆけば  
羊群声なく牧舎に帰り  
手稲の嶺黄昏こめぬ  
雄々しく聳ゆる楡の梢  
打振る野分に破壊の葉音の  
さやめく蜩に久遠の光り  
おごそかに北極星を仰ぐ哉

## 三

寒月懸れる針葉樹林  
櫓の音凍りて物皆寒く  
野もせに乱る清白の雪  
沈黙の暁霏々として舞ふ  
ああその朔風細々として  
荒ぶる吹雪の逆巻くを見よ  
ああその蒼空梢聯ねて  
樹氷咲く壮麗の地をここに見よ

## 四

牧場の若草陽炎燃えて  
森には桂の新緑萌し  
雲ゆく雲雀に延齡草の  
真白の花影さゆらぎて立つ  
今こそ溢れぬ清和の陽光  
小河の濤をさまよひゆけば  
うつくしからずや咲く水芭蕉  
春の日のこの北の国幸多し

## 五

朝雲流れて金色に照り  
平原果てなき東の際  
連なる山脈玲瓏として  
今しも輝く紫紺の雪に  
自然の藝術を懷みつ  
高鳴る血潮のほとばしりもて  
貴とき野心の訓へ培ひ  
榮え行く我等が寮を誇らずや